

顕神の夢 —幻視の表現者— 村山槐多、関根正二から現代まで

人知を超えた「何か」の訪れにより得た霊的な体験を、創作のモチベーションとする表現者たちがいます。その「何か」をとらえようと焦がれ、制作に向かう彼らの心情を、本展では仮に「顕神の夢」と名付けてみました。「何か」に憑かれ媒体となって私たちの世界へと繋ぐ行為、「何か」からの干渉を感知し幻視体験を通して得たヴィジョン、また直接感得した神仏のイメージの図像化などから生み出された作品の数々。本展では5章構成で51名の作品を紹介し、超越的な存在との関わりを基点とする、いわば「霊性の尺度」で見直すことで、その豊かな力の再発見、再認識を試みます。

展覧会名	顕神の夢 —幻視の表現者— 村山槐多、関根正二から現代まで
会期	2023年8月26日(土)–10月15日(日) (46日間) *会期中、展示替を行います。 前期：8月26日(土)–9月10日(日)／後期：9月12日(火)–10月15日(日)
出品点数	展示総数約130点 (前期・後期で約20点を入れ替え)
会場	久留米市美術館 2階
主催	久留米市美術館、読売新聞社、テレQ、顕神の夢展実行委員会
後援	久留米市教育委員会
助成	一般財団法人地域創造
監修	鎌田東二 (京都大学名誉教授)
スペシャルパートナー	株式会社ブリヂストン
オフィシャルパートナー	学校法人久留米大学、株式会社筑邦銀行、株式会社森光商店、喜多村石油株式会社、株式会社ユー・エス・イー
入館料	一般1,000円 (800円) シニア700円 (500円) 大学生500円 (300円) 高校生以下無料 前売700円 障害者の方は手帳のご提示で、ご本人と介護者1名は無料。 () 内は15名以上の団体料金、シニアは65歳以上。 上記料金にて石橋正二郎記念館もご覧いただけます。 前売券はチケットぴあ、ローソン各店にて会期1ヶ月前より販売。 (Pコード 686-435 Lコード 86704)
休館日	月曜日 (9月18日、10月9日は開館)
開館時間	10:00–17:00 (入館は16:30まで)
交通案内	JR博多駅よりJR久留米駅まで新幹線で20分、快速で40分 福岡(天神)駅より西鉄久留米駅まで特急で30分、急行で40分
本展に関するお問い合わせ	久留米市美術館 展覧会担当：原口花恵、松隈知子 (広報) 〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015 (石橋文化センター内) TEL 0942-39-1131 / FAX 0942-39-3134

展覧会のみどころ

1. 見神者たち

得体の知れない、人間を超えた存在。「神」とみなされることもあるその「何か」に見出され、媒介者としての役割を果たす、宗教家、霊媒気質の表現者たちがいます。神懸かりによって「何か」の言葉を自動書記で記した出口なお（1837-1918）、憑依中、わずかな時間で《三貴神像》を描きあげたという岡本天明（1897-1963）。カンカカリヤ（神懸かり）である宮川隆（1955-）の作品には文字とも絵とも判別しがたいものが現れています。



出口なお《お筆先》
 鎌田東二氏蔵



1. 金井南龍《妣の国》1969年
 さすら蔵



岡本天明《三貴神像》1948年頃
 個人蔵

▶出品作家：出口なお、出口王仁三郎、岡本天明、金井南龍、宮川隆、三輪洗旗

2. 幻視の画家たち

「何か」が訪れたとき、表現者たちに幻が顕れます。彼らには尋常ならざる感覚があり、幻視、ときに幻聴として意識されます。宗教的なビジョンもまた制作の重要なモチベーションとなります。萬鐵五郎（1885-1927）の描いた《かなきり声の風景》は、風景画でありながら、まるで生き物がうごめいているようです。画家の内側から聴こえてくる見えざるものを反映しているのかもしれない。



2. 関根正二《三星》1919年
 東京国立近代美術館蔵



3. 萬鐵五郎《かなきり声の風景》
 1918年 山形美術館寄託



4. 村山槐多《裸婦》1915-16年
 町立久万美術館蔵



5. 齋藤隆《ドラマ（地の巻）》1986年
 福島県立美術館蔵【前期展示】

▶出品作家：村山槐多、関根正二、河野通勢、萬鐵五郎、古賀春江、高橋忠彌、三輪田俊助、芥川麟太郎、内田あぐり、藤山ハン、庄司朝美、齋藤隆、八島正明、花沢忍

3. 内的光を求めて

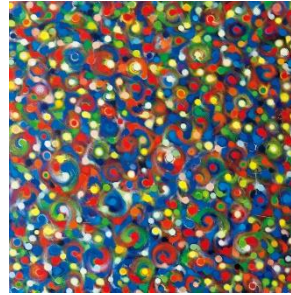
網膜に映る光ではなく不可視の光、つまり心に浮かんだ霊的光とも言える内的なものを第三者にも「見える」ようにするために、表現者は色彩に変換し、絵画化します。その作品は、超感覚的な「響き」を伴う色彩で描かれます。石塚雅子（1965-）は奏者としての一面も持ち、それは内的な光と無関係ではなく、見えざる「何か」からもたらされた「響き」がその画面に出現しています。一方、横尾龍彦（1928-2015）の画面には内的な光、つまり内にうごめく情動が龍として顕れています。



6. 横尾龍彦《龍との闘い》
1988年 鎌田東二氏蔵



石塚雅子《迦陵頻伽》
2014年 作家蔵



藤白尊《小さな渦群》
2022年 作家蔵

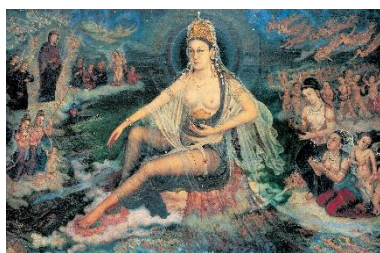


黒須信雄《天之眞名井No24》
2005年 足利市立美術館蔵

▶出品作家：横尾龍彦、藤白尊、上田葉介、黒須信雄、橋本倫、石塚雅子

4. 神・仏・魔を描く

直接的に神仏を感得し、絵や彫刻というかたちに留めた表現者たちによって、そのヴィジョンを通じた独自の図像が生みだされました。図像には彼らの内面が投影されますが、「何か」は神や仏としてのみならず、魔としても現れました。牧島如嶋（1892-1975）の《魚籃観音像》には魚籃観音を中心に天女やマリア、天使が同画面に描かれており、仏教やキリスト教および神道にも通じていた牧島独自の図像となっています。



7. 牧島如嶋《魚籃観音像》1952年
公益財団法人足利市民文化財団蔵



8. 平野杏子《善財南へ行く》1974年
平塚市美術館蔵



9. 長安右衛門《装飾文様(懊悩)》
1927年 東京藝術大学蔵



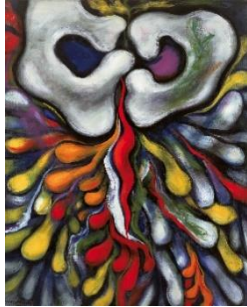
10. 三宅一樹《スサノオ》2014年
作家蔵 photo: Satoshi Nagare

▶出品作家：円空、橋本平八、高島野十郎、藤井達吉、秦テルヲ、長安右衛門、平野杏子、牧島如嶋、佐藤溪、石野守一、真島直子、吉原航平、若林奮、黒川弘毅、佐々木誠、三宅一樹

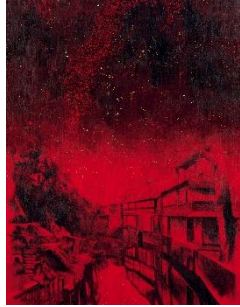


5. 越境者たち

こちら側と向こう側、三次元の世界と異次元の世界。その境を越え、常人とは異なる視点からこの世界を眺める者たち。彼らにはこちら側はなじみがたい場所であり、ときとして幻視や幻聴に襲われます。向こう側と通じることで、バランスを保つのです。中園孔二（1989-2015）は己が留まる世界に違和感を抱き、孤独の中に現れ、迫ってくる幻覚を描いています。



1 1. 岡本太郎《千手》1965年
川崎市岡本太郎美術館蔵



1 2. 横尾忠則《水のある赤い風景》
1996年 作家蔵
(横尾忠則現代美術館寄託)



1 3. 中園孔二《無題》
2014年 個人蔵
©Koji Nakazono, Nakazono Family
Courtesy of Tomio Koyama Gallery



1 4. O JUN《XMAZ》2013年 作家蔵
撮影：宮島径 ©O JUN Courtesy of
Mizuma Art Gallery

▶出品作家：宮沢賢治、草間彌生、岡本太郎、横尾忠則、馬場まり子、赤木仁、舟越直木、
中園孔二、O JUN

関連事業

□開催記念鼎談「顕神の夢」

日時：8月26日（土） 14:00—15:30（開場 13:30）

登壇者：鎌田東二氏（京都大学名誉教授・本展監修者）

江尻潔氏（足利市立美術館次長・本展提案者）

土方明司氏（川崎市岡本太郎美術館館長・本展提案者）

会場：石橋文化会館小ホール

定員：120名（先着順）

※入場無料・申込不要 全席自由



□ワークショップ「わたしが、絵を描く」

日時：9月24日（日） 13:00–15:00

講師：O JUN氏（本展出品作家）

会場：美術館1階多目的ルーム

定員：12名

対象：中学生以上

※参加無料・要申込

申込み方法：参加者全員の氏名（2名まで可）、代表の方の郵便番号・住所・電話番号をご記入の上、ハガキ、FAX、またはwebでお申し込み（webでの申し込みは美術館webサイトをご確認ください）。応募多数の場合抽選。

※9月1日（金）必着

※結果は9月11日（月）までにお知らせ

□ギャラリートーク

▶O JUN氏による

日時：9月24日（日）11:00–（40分程度）

▶担当学芸員による

日時：9月10日（日）、10月8日（日） 両日とも14:00–（30分程度）

▶サポートボランティアによる

日時：9月2日（土）、16日（土）、30（土）、10月7日（土）

いずれも14:00–（20分程度）

集合場所：美術館2階エントランス

※申込不要・要観覧チケット

作品掲載に関するお願い

1. 作品掲載をご希望の方は、別紙の「画像利用申込書」にて申請ください。
2. 展覧会の広報を目的とした使用に限らせていただきます。二次使用はできません。
3. 作品の文字のせ、トリミングはできません。
4. 当館が指定するクレジットを必ず作品と一緒に掲載してください。クレジットは別紙の「広報画像利用申込書」をご参照ください。
5. webページ掲載の場合は、必ずコピーガードの処理をお願いします。
6. 広報用作品以外の画像をご希望の場合は、申込書の「その他」の欄にタイトルを記入してください。
7. 掲載見本を必ず1部お送りください。